

# 会議結果報告書

令和4年5月24日

会議の名称	令和4年度第1回志木市健康づくり市民推進協議会
開催日時	令和4年5月12日（木）午後1時30分～3時30分
開催場所	西原ふれあいセンター（健康増進センター 2階）
出席委員	山下和彦会長、中村勝義副会長、宮本日出委員、田中節子委員、宮原賢子委員、宮下博委員、荒野壽子委員、星野賢委員、細沼明男委員、隅田由香利委員、増田康太委員、西和江委員、藤恵子委員、松永みどり委員 (計 14人)
欠席委員	鎌田昌和委員、妙智豊子委員、細川年幸委員、山本眞由美委員、武村久仁子委員、大熊啓太委員、飯田順一委員 (計 7人)
説明員氏名	安形喜代美（健康政策課）、熱田美乃里（健康増進センター） (計 2人)
議題	講話「いろは健康21プラン（第4期）」の概要について 講師 志木市健康づくり市民推進協議会会長 東都大学幕張ヒューマンケア学部教授 山下 和彦 氏 (1) いろは健康21プラン（第4期）、食育推進計画（第2期）、歯と口腔の健康プラン（第2期）の進捗状況について (2) 市民のこころと命を守るほっとプラン（自殺対策計画）の進捗状況について (3) 次期計画の策定方針について (4) 令和4年度計画策定スケジュールについて (5) 市民意識調査の実施概要について (6) その他
結果	別紙、審議内容の記録のとおり (傍聴者 0人)

事務局職員	大熊克之（子ども・健康部長）、清水裕子（健康政策課参事兼課長） 安形喜代美（健康政策課主幹）、伴恭臣（健康政策課主査） 小林麻有（健康政策課主査）、森あゆみ（健康政策課主任）、 菅原美里（健康政策課主事）、杉田明子（健康増進センター副所長） 山田美穂（健康増進センター主査）、熱田美乃里（健康増進センター主事）
-------	---

審議内容の記録（審議経過、結論等）

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 講 話
 

「いろは健康21プラン（第4期）」の概要について

講師 志木市健康づくり市民推進協議会会長  
東都大学幕張ヒューマンケア学部教授 山下 和彦 氏
- 4 議題
  - (1) いろは健康21プラン（第4期）、食育推進計画（第2期）、  
歯と口腔の健康プラン（第2期）の進捗状況について・・・資料1
  - (2) 市民のこころと命を守るほっとプラン（自殺対策計画）の進捗状況  
について・・・資料2

事務局より資料1、2について説明を行った。

委員長：特定健診、保健指導のデータが改善するのはとても良いことだ。歩くということにフォーカスする市町村や団体は多いが、志木市はもうやっている。ポイント事業とも相性が良いので、そういうインフラを活用するのも市の狙いだと思うので、そういう情報を発信していくと他の市町村の模範にもなる。自殺の電話相談がなかなか繋がらないという話を、他の市町村ではよく聞くが、志木市はしっかりサポートできているようなので、とても良いと思う。

  - (3) 次期計画の策定方針について・・・資料3

事務局より説明を行った。

  - (4) 令和4年度計画策定スケジュールについて・・・資料4
  - (5) 市民意識調査の実施概要について・・・資料5

業者より資料4、5について説明を行った。

委員：資料3、4について伺いたい。資料4に出ている「いろはプラン」と「ほっとプラン」は資料3でいう「いろは健康21プラン」のことで、④の「市民のこころと命を守るほっとプラン」はそう理解して聞いていたが、そうすると資料3の②、③、特にデータヘルス計画については、我々はノータッチで進んでいるということなのか。もし、我々がそういうことも含めてやっていくのであれば、データヘルス計画の指針と志木市の2期はどれくらい違っているのか、そういうところまで知っておく必要があると思う。

事務局：②、③を審議するのは国保運営協議会だが、いろいろなデータを把握した上で計画を立てていくことが前提なので、内容は整合性を図っていく。

委員：資料5で、配布件数400件、600件と書いてあるが、この抽出方法はどのようにしたのか。

事務局：抽出条件は、志木市在住の19歳以上の一般市民に関しては、青年期、壮年期、高齢期の各500件ずつに分けて、無作為で抽出し、送付する予定である。志木市在学の中学生・高校生については、前回の計画では志木二中と宗岡二中、志木高校と細田学園にご協力をいただき、アンケート調査を行った。今年度の意識調査については、志木中、宗岡中、志木高校と細田学園にご協力をお願いしたいと考えている。志木市在住の小学生の保護者についても、前回は志木小、志木二小、宗岡三小、宗岡四小をお願いしたので、今年度の意識調査については志木三小、志木四小、宗岡小、宗岡二小を予定している。乳幼児の保護者については、健康増進センターで行われている健診があるので、健診に来た保護者の方に、その場でアンケートにご協力いただく形で検討している。

委員：中学、高校の場合は学校に渡すということだが、誰を対象にするのかは学校に任せるのか。

事務局：各学年1クラスずつを対象に行う予定である。

会長：新しく出てきたキーワードに、SDGs、ウィズコロナ、災害時、健康経営、障がいを持っている、などがある。健康経営は企業や行政が対象になり、多くのところは情報提供くらいで終わっている。一部は歩数アプリなどを配って、達成すると商品券を配ったりするが、効果検証はしていないのが今の課題である。これらをどう解決するか、計画に盛り込む必要があると思う。障がいを持っている、というキーワードは難しい。皆さんの考える障がいとは何か。障がいとは環境にあり、それが無いこ

とで、その人に制限がかかると障がい者となる。環境に障害がなければ、普通の活動ができるわけなので、環境をどう整えるかというところと、市民の理解をどう深めるかで、サポートがあれば全然障がいではない。あとは子どもの学習障害というのも大きな問題であるが、これも環境や先生方のサポートがあればクリアできることなので、課題をきちんと整理して、環境に対する問題、周囲に対する問題、ICT やツールに関する問題、こういうところを切り分けると、上手い計画が作れると思う。そういうことが進められると、志木市としてメリットになり、効果検証まで含めると新しい計画になると思う。

#### (6) その他

委員：社会福祉協議会では市民の必要とする福祉事業を提供している。この2、3年コロナ禍の間は、福祉活動はほとんど開催できなかったが、少しずつ利用する人も増えてきているので、こういう状況になってもサービスの提供が継続できる形で、徐々に戻せると良い。介護保険事業所でもあるので、コロナ禍でもヘルパー派遣はやむを得ないので、そういった方々の需要が今後どの程度伸びていくかが課題である。そういった福祉の細かな面で、計画にどの程度盛り込めるか分からないが、一般の市民の方に提供する事業を掲載しているようなので、そのことにプラスして、新たな計画なのでコロナに順応して、対応できるような事業展開を目指して、掲載できればと思う。

委員：歯、口の健康が全身の健康に結びついているというのは、周知の通りである。口の中の環境を良くするためには、歯の周りにこびりついているバイオフィルムという膜をはぎ取る必要があるが、これは通常の歯ブラシでは取れないので、情報を発信して、市民の方が知識を得たからといって改善されるわけではない。歯医者に行き、通院し、それを継続することが必要なので、健診を通じて行動変容が起こるように働きかけていきたい。

委員：毎月あった定例会がコロナ禍で開けず、皆さんと会うことができなかったので、何かあると電話で連絡をしたりしていた。乳幼児の健診では、以前は一度にすごい人数が来たが、現在は時間帯を分けて案内しており、番号順に少しずつの人数でできるようになったのは、とてもよかった。訪問は、コロナだから会いたくないという人も多かった。少し落ち着いて、定例会ができるようになって良かった。総会も書面でやるよ

うになった。

委員：年齢がいても働く人が多いので、会員数が減少している割に、入ってくる数も減っている。事業も少しずつ戻る雰囲気になっているが、3年近く中止や制限があった中、今まで通りに開いた場合、どれくらいの方が参加するか不安である。担当職員からの提案により、会食はできずとも運動に力を入れるなどで、細々と進めている。

委員：志木市町内会連合会としては、コロナのため一切の事業を行っていない。

委員：5月に総会があるが、コロナ禍のため役員だけで行う。健康のために、まちの中を歩きながら、ゴミ拾いをしている会員がいる。吸い殻が多く落ちており、駅前では貴重品を拾って交番に届けたこともある。困りごととして、近所に行動がおかしい人がおり、サポートで日常の行動を見守っている。息子と2人暮らしだが、昼間はその人1人で、郵便局に徘徊したりしている。息子が自分で気づいて、病院に連れて行ってもらえると助かるのだが、それをどのように伝えたら良いかが難しい。連合全体の活動としてはコロナ禍のため行っていない。7月に落成記念イベントの参加予定である。

会長：ボランティアはとても良い活動だ。心配な方の件は、行政と連携しているのか。

委員：まだ相談していない。

会長：8050問題では、親子共に課題を抱えるケースについても各地域で問題になっている。早急な行政と市域の連携で介入するのがとても重要なので、是非行政と一緒に対応をお願いしたい。

委員：ここ2年大会運営はできなかった。特にスポーツ少年団の関連は、県や国の指針に合わせなければならなかったのが、子どもたちもイライラしていたと思う。大分落ち着いてきたので、今年度は各連盟の中で運営ができていくと思う。中でもパークゴルフには年配の方の参加が多くなっており、高齢者の健康増進に役立っている。これからの計画の中には、ウィズコロナの対応について入れておくべきだと思う。

委員：国民健康保険の運営協議会は12人の委員がいるが、国民健康保険に関する施策や予算を協議したり、市長の諮問にこたえる団体なので、具体的な施策は行っていない。年2、3回不定期で開催される協議機関である。先程宮下委員から質問のあった、データヘルス計画や特定検診の実施計画は、国民健康保険の事業なので、この運営協議会の中では報告

や進捗、概要についての説明をいただいている。志木市は7万6千人の人口がいるが、その約30%の1万6千人弱が、国民健康保険の保険対象者である。世帯数でも、約30%の1万強の世帯になる。保険料の収入で医療費等が全部補填されるのが理想だが、現実にはそうはいかず、市の一般会計の中から補填されている財政状況である。これは志木市だけではなく、全国的な問題なので、国をあげての喫緊の課題である。そういうこともあるので、志木のこの協議会もあると思うが、法定外の繰り入れが多ければ多いほど、3分の1の世帯数での健康保険組合の運営の中に、市民の税金が投入されているということ。やはり医療費は抑えられている方が健全な財政になってくるといことなので、運営協議会の方としても、志木市全体をあげて医療費を抑えていくということに関しては、非常に意義のあることだと思う。

先程、私の質問したほっとプランのアンケートに関しては、適切にアンケートが取られていないということが、よくいじめの報道で取り上げられるので、高校や中学校のアンケート先の選定に関しては、それなりの議論をしてほしい。

委員：わが校でも、子どもたちの足の健康について、足育の授業を行った。昨年度は3年生だけだったが、今年度は3、4年生で行った。昨年度、足を測定した結果のフィードバックをしたら、子どもたちだけでなく、保護者も非常に興味を持って興味深く学んでいるのが伝わってきた。この取組を通して、子ども自身が自分の足、身体に意識を向ける機会に繋がっていると思うので、継続的に行ってほしい。学校現場としてはコロナの方は大分落ち着いてきているが、感染対策をしながら学校行事も制約があり、大声での活動、接触などは思う存分にはいかないので、子どもたちも慣れてきているとはいえ、思い切りできない部分でストレスを感じているようだ。子どもたちより、初めて子どもを学校に預ける親御さんが、学校で繋がる機会がほとんどない。以前は懇談会や授業参観、地域の行事で、親御さん同士で関わることもあったが、今はほとんどない。新1年生で、同じ学校に通わせているのに、親同士が顔を知らないといった状況が非常に多いのが、学校としては心配である。家庭が安定していると、子どもたちの心も安定し、学びに向かう力もついてくるが、そういった保護者の不安が、子どもたちにどう影響していくのか、学校でも丁寧に見ていきたいと思う。

また、先程あった障がいというところは、見える障がいではなく見えな

い障がい、例えば集団の中では何となく生きづらさを感じている、性的マイノリティという自分自身の身体の中の変化についても、どこでどう表現してよいのか分からない、見えない困り感というのも、この後丁寧に見ていく必要があると感じている。今後も子どもたちの健やかな成長のために、学校現場も頑張っていきたい。

委員：しっくい前はコロナ前は1か所のクラブハウスに子どもや市民が集まって、色んな事業を展開してきたが、ここまでくることが大変、という声があったので、現在は曜日ごとに場所を変えて、地域サロン事業を実施している。日中はシニアが集まって交流して、3時を過ぎると放課後の子どもたちが集まってきて、シニアの会員さんとお話をしたり、カルタで遊んだりする様子が見られる。4月に自分の母が脳梗塞になり、今まで運営側だった母が、そこの地域サロンに参加する側になった。参加する場があるというのは本当に大切だと実感している。自分自身、そこに来る子ども達や高齢者さんたちに励まされているので、サードプレイスというのはこれから大事になってくると思う。色んな会員さんに言われるのが、他の柏町の方がなかなか来られないということだ。今まで1か所に来て何かやっていたことが、できにくくなりつつあるので、そこに課題が出てきていると思う。だからもう少し小単位の地域包括とか、そういったところで今までやってきたことを細分化していくのが必要になってくると思う。

委員：歯科衛生士会で毎回課題として上がるのが、保育園や子育て支援、小中学校の事業は、コロナの中でも少しずつ進められてきて、課題はまだあるが、その状況の中でできたかな、と思うのだが、その次のライフワークでいくと、もう介護予防事業に入ってしまう。その先に行くと一般や要支援の方への訪問サービスまで進んでしまい、1番のターゲットである70代の方たちに触れる機会、会う機会がなく、事業自体を展開するのがいつも難しいと思う。以前は健康まつりがあり、まつりに来た人たちとのちょっとしたふれあいの中で、こういうことが伝わっていないのだな、というのが大きなヒントになっていたのだが、今はコロナになってつかみづらいのが、課題として残ってくる。

委員：市内12校に各1名ずつ養護教諭がおり、校長先生と協力をしながら児童生徒の健康を守っていく活動として、手洗い、マスク、ソーシャルディスタンスの指導をしている。歯科医師会の先生と協力して、フッ化物の洗口を週1回行ったり、保健指導を各学校で実施していたが、コロ

ナ禍でそういった行事もできず、給食後の歯磨きができなくなった。昨年度1年間で出席停止は630人位いたので、今後も感染対策を十分に行っていきたい。中学校4校は朝のフッ化物洗口を実施しているので、虫歯保有率は下がったと思う。今後はマスクを外せない子も出てくると思う。不登校の子に今後どう取り組んで、支えていけるか考えて行きたい。

委員：薬剤師会ではコロナ感染が広がる前から、ポリファーマシー事業を展開しており、昨年で3年間連続行った。国保連合、社保連合と提携して実施したのだが、実感として、参加してくれる患者、実際にポリファーマシーでありながら、なかなか薬局に申し出てくれる方が少ない印象がある。昨年度は県レベルで行ったが、やはり参加数が十分ではない印象があった。これは課題として、自分の住んでいる近くの薬局に、まずはかかりつけ薬局を作ってもらふことによって、その薬局がポリファーマシーを発見できるようになると思うので、そのところを市の行政と連携して、かかりつけ化をしていくことが、ポリファーマシー改善になっていくと思う。かかりつけの薬局を作ってもらふと、かかりつけ薬局の薬剤師は一人ひとりを見られるようになる。「体重が減ってきた」といわれた時に、「歯科に行っていますか？」と問いかけができる。痩せてくると入れ歯が合わなくなって、たんぱく質を採れなくなるという負のスパイラルが進んでしまう。高血圧治療、糖尿病治療の薬は必ずもらいにくるので、薬局や三師会と連携して、行動変容ができていくと良いと思う。新型コロナワクチンの集団接種に、他市では薬剤師も参加している。PCR検査も薬局で受けたりしている。厚労省で策定している、患者のための薬局ビジョンというものがあり、処方箋の薬をもらうだけではなく、健康のサポートというのも薬局の業務の目標の1つである。認知症の傾向や心配のある方は、薬局でも包括センターにつなぐ事例があるので、気軽に相談してほしいと思う。もっと薬局を活用して欲しい。

会長：ポリファーマシーと歯科はそれぞれ行動目標の1つなので、大事な2本柱がここに入っている。様々な連携をできるというのはとても良い話なので、是非形になると良いと思う。他市では、かざすくんにヘモグロビンを測る仕組みを取り入れているところがある。糖尿病かどうか気になる人は、自分で調べることができる。薬局に置いてあるので、そこからドクターに繋いでもらえる連携事業になっているので、そういった見える化をするのも、今後の1つの在り方になると思う。薬剤師、歯科関連の皆さんも、ぜひ活用していけると、すごく良い形になると思う。



いろは健康21プラン推進事業実行委員会は、30～40人のメンバーで進めている。ノルディックウォーキングの全国大会の実施、市民勉強会の企画・運営など、委員の中で興味がある内容をリスト化して、講師を探して話してもらうことを行っている。ノルディックの団体が4つあるので、連携しながら市民の健康づくりを進めていくことをしている。名前が長いので、愛称を「あるつく志木」としている。今年度2回目の、第6回の勉強会は6月にあるが、前回もとても興味深い話で大盛況だったので、是非参加いただければと思う。

## 5 閉 会

事務局：次回の会議は8月8日（月）を予定している。